

第五回 荒川区区政改革懇談会

グループ討議会議録:真紅

【日時】

11月1日(火) 19:30~21:30

【場所】

荒川区役所 議員待遇者室

【次第】

ステップ1: はじめに

ステップ3: 今後の話し合いの進め方

ステップ2: 中間発表会に向けて

ステップ4: その他

ステップ1: はじめに

【中間報告会の説明】

コンサルタントより、中間報告会の説明がなされた。

【配布資料の確認】

コンサルタントより、配布資料「中間発表資料(案)」について、内容説明がなされた。又、真紅グループメンバーから中間発表会に関する提案資料が提出された。

ステップ2: 中間発表会に向けて

【真紅グループメンバーからの提案】

メンバーから、中間発表や今後の話し合いに関する提案があった。内容は、配布資料「中間発表資料(案)」の「2-1 目指すべき将来像」の5項目(行ってみたいと思えるようなまち 住んでみたいと思えるようなまち 災害に強いまち、安全なまち 共存(ノーマライゼーション)意識が高い、支えあいのまち コミュニティが活性化しているまち)だと、焦点がぼやけてしまうため、戦略的に、3項目(再開発(住んでみたいまち) 観光開発(行ってみたいまち) コミュニティ構築(顔の見えるまち))に絞ったほうが良いのではないかと意見であった。

【中間報告会資料について】

- 「中間発表資料(案)」のP7に記載してある、お年寄・障害者マップは、個人情報漏洩して、犯罪に利用される懸念があるので、削除したほうが良いのではないかと。
- 真紅グループは、福祉・介護・子育てに関連した深い議論は少なかったが、3項目に絞ってしまうと、偏ってしまうのではないかと。今後は、福祉・介護・子育てについても、話し合いたい。
- 様々なニーズとそれを踏まえての将来像があることを、生活者視点やベースになる座標軸のようなものとして伝えることが必要だと思ふ。
- 座標軸だけで終わる話ではない。戦略的な要素も必要ではないかと。

- 基本構想に必要なことは、それぞれの主体、それぞれの立場をわかりやすく説明し、柱として、つくっていくことである。
- 区民参加のあり方を、基本構想に盛り込みたい。荒川区の行政の住民参加は、スタートしたばかりなので、今回の懇談会を、住民参加の足がかりにしたい。
- 福祉関係の話し合いはあまりなかったので、発表する必要はないのではないか。
- 項目を減らすことで、伝えたいことが伝わらなくなるのではないか。話し合いの中で自然に出てきたものを発表した方がよい。
- 5項目をまず打ち出し、主に3項目を中心に話し合ったことを発表したほうが良いのではないか。
- 「行ってみたいまち」、「住んでみたいまち」は、真紅グループ独自の言葉である。
- 荒川区は、近所づきあい等のコミュニティが、まだ残っているので、「顔のみえるまち」を打ち出していきたい。
- 福祉・防犯・防災も盛り込んだ方がよい。
- 中間発表は、他チームと競うものではないので、戦略的に考えすぎず、気楽に、今までの話し合いを発表すれば良いのではないか。
- 最終的には、他グループとあわせて、基本構想を検討していくので、色々な情報を発表した方が良いのではないか。
- 懇談会は2月までに、集約する必要がある。
- 集約する努力は必要だが、今回の懇談会は、住民参加の切り口と考えれば良いのではないか。あまり戦略的なものは、考える必要はないと思う。
- 行政の住民参加のベースをつくるほうが、先決である。そもそも戦略とは何だろうか。
- もし戦略的に発表するのであれば、「行ってみたいと思えるようなまち」と「住んでみたいと思えるようなまち」の2項目を“戦略”として発表し、「災害に強いまち・安全なまち」、「共存（ノーマライゼーション）意識が高い支え合いのまち」、「コミュニティが活性化しているまち」の3項目を“住民のニーズ”、“座標軸”として発表すれば良いのではないか。
- 5項目の中で、3項目に絞る理由がわからない。
- はじめから、3項目に絞れば、わかりやすいが、今までの話し合いは、決して3項目だけではない。3項目は主に話し合ったこととして、発表すればよいのではないか。
- 地方自治のあり方自体が、基本構想だと思う。理念的なものなので、戦略とは違う。
- 区民の考えを率直に伝えることが、大切である。
- 戦略とは、50年後、百年後の荒川の姿を考えることである。
- 区民のニーズを伝えることが、今回の懇談会の軸になっていると思う。
- 今回の中間発表は、今までの検討内容を発表するとともに、他グループの話を聞く、良い機会だと思う。

【 中間報告会資料についてのまとめ】

- 将来像は3項目に絞らず、5項目のままとし、各々の議論の強弱がわかるように発表する。

ステップ3：今後の話し合いについて

- 2月末までに、今までの意見を集約して、真紅グループとしてのものを打ち出さないといけない。
- 提言として、質の高いものを出したい。
- 話し合ったものを出すのと、質の高いものを出すのは違う。まだ質の高いものを打ち出すまで、至っていないので、より深い話し合いが必要である。
- 中間発表に向けての手法ばかり話しあっている。今までの話し合いを、深めるほうが大切なのではないか。
- 「目指すべき将来像」を見据えて、個々に文書を作って、提出し、話し合いを進めてみてはどうか。

ステップ4：その他

【次回について】

中間発表会に向けての発表者の選出をして、メンバーの出欠席の確認もなされた。また、「目指すべき将来像」についての文書を出せる人は、事務局に郵送するか、11月23日の中間発表の時に、提出することになった。

中間発表会の日程は、11月23日 13:30より

以上